



小  
 花  
 海  
 集  
 種  
 類  
 分  
 記

多 9  
 1338  
 19



門ヲ多  
號 1938  
卷 19



墨香流古式記録集

六種炷合記

炷出之外  
不用正銘

長月

真詩

許小トト 炬出 炷香よるの月の名の一  
コトハハシクシマシキモウツテアノムチ  
コトハハシクシマシキモウツテアノムチ  
コトハハシクシマシキモウツテアノムチ  
コトハハシクシマシキモウツテアノムチ

秋の  
る

寿報



松風 室聞一炷詩歌記

松風 隱家 秋の雨

はまもつ乃高少もふ人とり那

この世あやの軒のまの風 剛

我高の松風をよもすのうもまこふ  
そいつききふも一まきまふ人  
う那のふもこちまてふつこく  
まきまのふもゆらふもまこふ  
こいつまふ  
うちうらたたくそらにけいふわ  
葉ゆもふもつこち一はる長月乃

秋のあつこくおそろそつて  
かよきそもか秋のくれやい 風

長月つこつこかきつこつこつ  
あつ 焰の中は紅葉もあれいそめに向  
もつこつこつこつこつこつこつ  
そよふ

後

夙<sup>レ</sup>締仙縁心地清脂克粉紅不揺情閑眠一枕  
書窓下被駭松風半夜聲 齡

自家紅葉已難類夜錦他所松聲 却能  
辨琴洞

前  
婦くそあくたうきよまろく秋の雨乃  
あまのうらのあまのうらのうら

草の香の秋の雨のうらまのうらまのうら  
あまのうらのあまのうらのうら  
あまのうらのあまのうらのうら

香来系譜托生涯不着塵置絶世諱荒徑

柴門無誤俗虫聲多處是吾家 粗

幽隱真境暗與花笑銘合

寄跡山林寂不諱半生清福在烟霞香薰一柱

幽窓下下瞰九衢塵寰家 詩

九衢塵寰之句從山谷老人閑香詩中翻案  
來自非深香類者誰能安排着得此句

墨香生自贊

六種の炷合の花後より

むらさきもまきのあまのうらのうら



とつゝうもひくる歌の軸と聖なるてしう翁の世々名  
高き侍つゝ人そありて成程のつゝと純にあだ  
よつゝういものてみたるゆりまのそとへ又其を  
まゝて香来二帖とよまゝる香来のそとへ人の  
香のそとへかきのせむるもゆりまのそとへ人の  
ちゝらゝ藤村庸軒のそとへせふる翁の花治幽  
茶の花のそとへえいそとへいりゝ柳のそとへ庸軒の

三宅七羊より香の茶の湯とよと成付く田子庸  
とよ香煙をゆつゝける人そとへいりゝ香の  
りありまゝけりるかゝつゝとよとよとよと色乃  
せんまゝりからとのそとへいりゝ硯とよとよ  
さき硯とよ茶標花乃とよとよとよとよとよと  
いゝとよとよとよとよとよとよとよとよとよと  
よのつゝとよとよとよとよとよとよとよとよと







くく調てすむよふくわのりし  
仙洞の供御をきてまつるつるもの  
ふまけもてきり入つてみゆいよ  
もはしむる紙の糸すきとて  
きまはまかきとん溝  
わらぬくあふんをきりく  
身そげりるな夜もあけあ

の内煮れ袖もさきてきり  
酒もすみてほしく  
らんさくもるも  
つるもあふん  
詩り香あり茶あり酒ありみか  
つるもあふん  
あふん

かゝるし...  
けり...  
かゝるし...  
けり...

中長 貞冬

天保戊戌之秋九月既而  
於吉月梅嶼之



